

## 令和4年度 第2学期 始業式

皆さん、おはようございます。夏休みは、多くの生徒が文化祭準備や部活動、また進路実現に向け努力する姿を目にして、皆さんのことを改めて頼もしく感じました。それぞれに充実の夏休みを過ごされたことと思います。

1学期の終業式には、チャンスをつかむ人は、「そうだよな…」「いいな!!」と思ったら行動に移す…という話をしました。行動することでチャンスは広がりますし、経験値も上がります。今日は、その行動力の源となる「そうだよな」という感覚、「共感力」についてお話しします。

「そうね」「わかる」という相づちは会話を促す重要なアイテムですが、それだけでは相手も「共感してくれた」とは感じないし、あなたの行動力にも発展しません。文章を読んで「そうだな」と感じて、なかなか行動には移せません。行動力の源となる「共感力」には、もう少し具体的なインパクトが必要です。

例えば、あなたが相手の立場に立って思いを巡らす時に、行動力の源となる「共感力」が起こります。相手の立場になって言葉をとらえると、時に表現されない悩みにまで思いがおよび、深い対話が生まれ「自分だったらこうする」とか「自分にもこれができる」との思いが湧くのです。このような共感には、具体的なイメージがあり、信念ある行動に発展する共感となるわけです。

共感力の本質は「相手の立場で考える」ことです。相手に合わせることはありません。「相手の立場に配慮し、自分たちの行動を貫いた共感力」の好例が、仙台育英高校の野球部監督さんの優勝コメントです。「東北の皆さん、おめでとうございます」から始まり、自分たちが頑張れたのは「目標となるチームがあったから」「コロナ禍で苦しいなか、全国の高校生が本当にあきらめないで頑張ってくれたから」としました。そして「ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手をしてもらえたら」と結びました。

自分たちの勝利を語らず、それを「東北の皆さん」と「全国の高校生」にシェア（共有）してくれました。たった今決した勝者と敗者の別ではなく、これまで同じ目標を目指した全ての球友に、さらに目標は違えど頑張っているすべての高校生にエールを送ってくれました。普段から周囲をリスペクトし、相手の立場で考え行動した人の思いは、万人を一体にするのだと感じました。

振り返って、私たちは、往々にして相手の立場に立ちきれないでいます。戦争にしても、異常気象にしても、目の前で困っている人がいるのに…、自分が被害者になっていたかもしれないのに…、一人が寄り添ってもダメだろうと思ってしまいます。政治も紛争も社会も変わらないと感じ、無駄に思えてしまうのだとしたら、私たちは「共感力」の基礎を失っているのではないかと危惧してしまいます。たとえ、私たちが相手の立場の半分程度しか理解できなくとも、人に寄り添い共感できる人は偉大なのだ…と改めて考えてほしいと思います。

2学期は、文化祭・修学旅行など大きな行事を通して、人間関係が広がります。共感力を高めるチャンスです。3年生は進路決定を迎える時期です。推薦入試組の皆さんは、一般入試組の仲間にエールを送る共感力が試されます。まだまだ頑張り続ける人が目の前にいることを理解し共感できれば、あなたの行動が変わり、仲間にもその思いが伝わるのです。皆さんが年齢を重ね、大学、社会人、家庭をもつという中で、相手の立場で考える「共感力」はますます重要になります。高校生活でも、ぜひ意識してみてください。

最後に、感染防止についてです。第7波が収束しないまま文化祭を迎えます。まだまだコロナ以前のように一般公開できる段階ではありませんが、保護者公開など、一定の条件のもとでの公開を検討する見込みです。昨年以上の文化祭の成功を目指し、皆さんの協力が欠かせません。

重要な防止策は、換気の徹底と昼食時の防止策です。各団体で、常時換気を行うとともに、多くの来場者があることから換気タイムを設定する等の工夫をしてください。昼食時も、分散・黙食の徹底をお願いします。文化祭直後には、3年生の推薦入試がスタートします。全員で感染防止に努め、有意義な2学期にしていきましょう。